

1997年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球 500 hPa 高度場を見ると、高緯度では極付近からグリーンランドにかけてと北欧から西シベリアで正偏差に覆われた。また、タイミル半島を中心に中央シベリアは負偏差となった。中緯度では、太平洋中部から東部にかけてと北米大陸南部、大西洋からヨーロッパ西部に負偏差域が広がった。5日平均図では第1半旬に北米大陸でPNAパターンがみられた。200 hPaの風速および風ベクトルをみると、ユーラシア大陸から太平洋にかけての亜熱帯ジェットは平年よりも東にシフトしていた。また、200 hPaの発散場を見ると、ソマリアの東、ベンガル湾の北、フィリピンの上海上および日付変更線の東に発散中心がみられ、対流活動活発域と対応していた。SOIは-2.3で2か月連続して-2を下回った。

世界の天候

① 中国東部・朝鮮半島の高温

日本から中国北部・モンゴルにかけてと東シベリアで月平均気温が平年より高かった。特に中国東部の高温傾向は昨年12月から継続している。

② インドシナ半島・インドネシアの高温

③ インド北西部・パキスタンの低温

パキスタンとインド北西部では月平均気温が平年より低く、インドシナ半島・インドネシアでは平年よりかなり高かった。

④ ヨーロッパ西部の多雨

⑤ トルコの多雨

⑥ アフリカ北西部の高温

アラビア半島からアフリカ北部にかけて月平均気温が平年より高く、チュニジアのケールアンで29.2°C(平年差+4.3°C)。月降水量はトルコやアフリカ西部で平年より多かった。

⑦ アメリカ合衆国南東部の多雨

カナダ西部、合衆国北西部・南東部では月降水量が平年より多く、下旬には合衆国テキサス州で洪水による被害が報じられた。

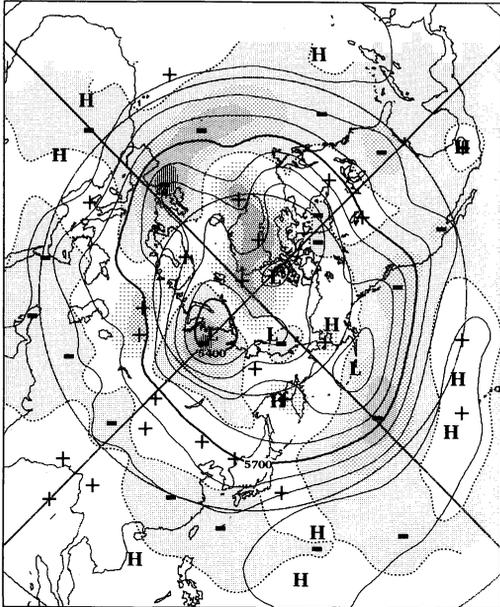
⑧ 南アメリカ北部の高温・少雨

⑨ アルゼンチン・チリの多雨

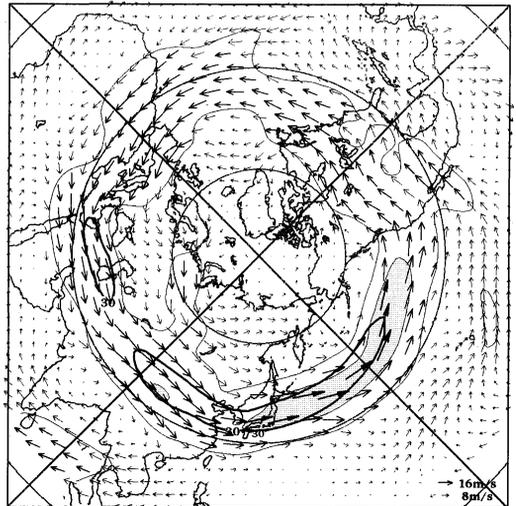
月平均気温はほとんどの地方で平年より高かった。月降水量は北部で平年より少なく、南部では多かった。チリで洪水や土砂崩れによって数十名死亡と報じられた。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 小林ちあき)

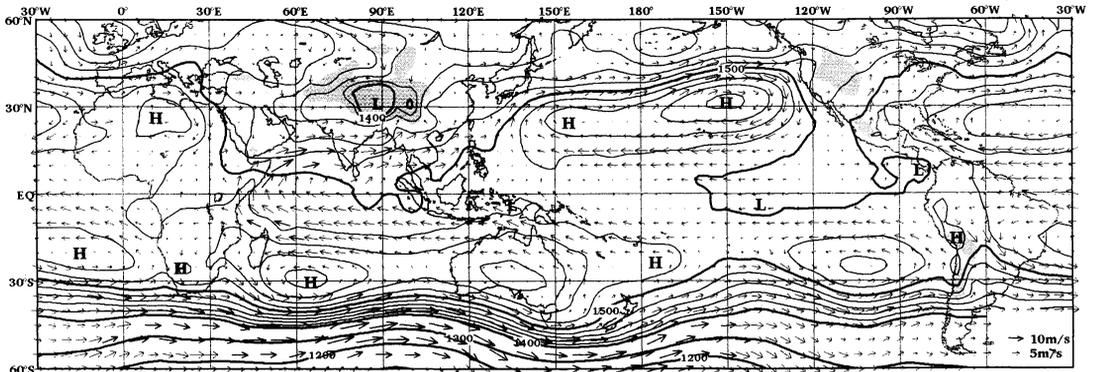
anomalies (m)
-180 -150 -120 -90 -60 -30 0 +30 +60 +90 +120 +150 +180



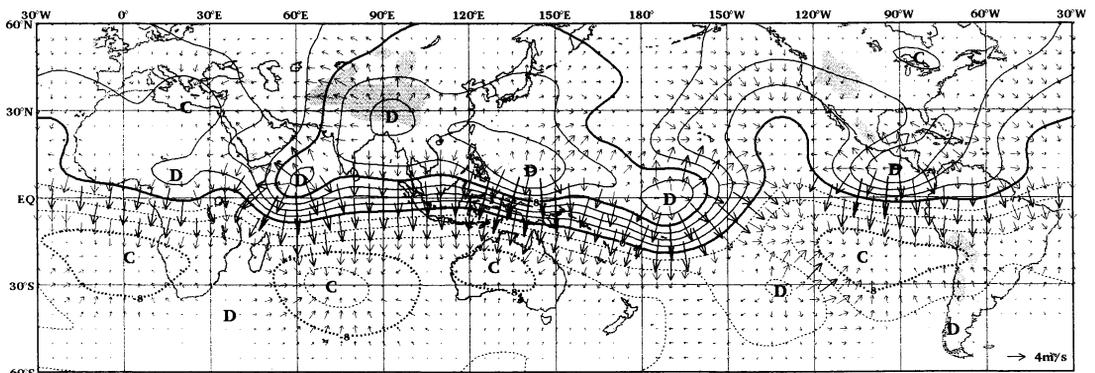
1997年6月の北半球月平均500 hPa高度および平年偏差
等値線間隔、偏差パターン間隔は60 m。平年値は1961～1990年のデータに基づくもの。



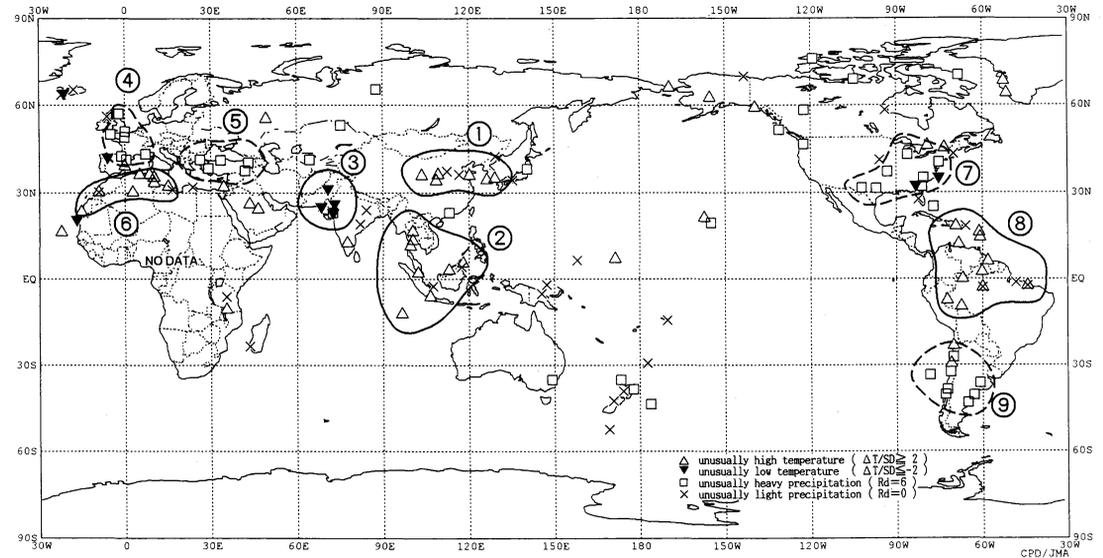
1997年6月の北半球月平均200 hPa風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は平年で40 m/s以上。平年値は1979～1996年のデータに基づくもの。



1997年6月の月平均850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 m までは100 m)



1997年6月の月平均200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1997年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の
 番号は本文中の番号と対応している.